令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　小森江　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の６年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

３．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2)　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な 傾向や特徴など	・言葉の特徴や使い方に関する事項や「話すこと聞くこと」に関して正答率が高い。 ・情報の扱い方に関する事項や読むことに関して全国平均より正答率が低い傾向にある。
	よくできた問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字を文章の中で正しく使うこと。 ・日常よく使われる敬語を理解していること。
	努力が必要な問題	・情報と情報との関係づけの仕方に関すること。 ・図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

算数	全体的な 傾向や特徴など	・数と計算に関しては、全国よりも若干高い正答率である。 ・データの活用の領域は全国平均よりも正答率が低い傾向にある。
	よくできた問題	（　　）を用いた式や加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ること。
	努力が必要な問題	・百分率で表された割合について理解すること。 ・「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ること。

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・「学校に行くのは楽しいと思う」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」との問いに対して90%以上の児童生徒が肯定的に回答している。また、「人の役に立つ人間になりたいと思う」の問いに関しては100%の児童が肯定的に回答している。しかし、自分には良いところがないと考えている児童が少なくない。 ・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。 ・「家庭学習において、自分で計画を立てて勉強している」と回答した割合が低かった。また、読書の時間が非常に短い。 ※これらのことから、社会に開かれた情報（読書や新聞、インターネットなど）を介して、インプット（「読むこと・聞くこと」）とアウトプット（「話すこと・書くこと」）を連動する学び、お互いに認め合う学びを一層、工夫・充実し、学ぶ楽しさを実感することができるようにする。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・現在、朝自習や特別活動などを活用し、「週一の読書の日」「図書郵便・クイズ」といった読書活動を通して、読む力の向上に努めている。また、「トークタイム」を設けて「話す・聞く力」にも努めている。今後一層、朝学習の充実を図り、書く力も伸ばしていきたい。
・「情報の利活用」が共通する課題として捉える。例えば、①テーマに沿って読書や新聞を読む。②自分の考えを端的に記述する。③友達と交流し、質問しあう。④質問されたことに回答するために、読書や新聞を用いて、必要な情報を収集し取捨選択する…など、情報のインプットとアウトプットを連動させる仕組みをつくるなど、工夫して取り組む。算数科では、一層個別の指導を充実する。

②　家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習の定着のために、自主学習ノートへの取り組みを推奨している。今後、例えば、①と連動させながら、テーマやまとめ方に個性が発揮できるよう促すなどして、主体的に学ぶ楽しさを実感できるようにする。